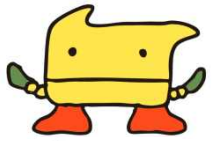


嬉 望

第 5 号
平成26年7月30日
兵庫教育大学
教職大学院
学校経営コース
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



ひょうちゃん
大学マスコット

前期終盤の学び

近畿地方にも梅雨明けが発表され、いよいよ本格的な夏が到来しました。

今年度の前期も終盤にさしかかりました。一年生は、共通基礎科目の成果物やレポートの仕上げに余念のない時期です。また、夏休みの効果的な活用法について、二年生に尋ねる姿もあちこちで見受けられます。

二年生は、専門科目のまとめと並行して、いよいよインターンシップの最終準備を進める時期となりました。さて、今号では、そんな前期終盤の学びの様子をお伝えします。



第54回 日本教育経営学会 in 釧路 学校経営コース報告会 7月3日(木)

先日の日本教育経営学会に参加した院生たちによる、報告会を開催しました。

まず、青山武司コース長の、「疑問に思ったことや、自身の課題意識と重なる内容の発表があれば、相互にしっかりと議論をすることで学びが深まる。そんな開かれた学びを目指そう」とのあいさつから会が始まりました。

以下が報告者及び内容です。



最新の研究成果を食い入るように聴く一年生。学びを深めようとする思いがあふれる。

- 自由研究から
- 鳥取県境港市立第一中学校 高濱禎彦教諭(二年)
- ☆「負のリーダーシップ状況における教員の組織行動」(同志社女子大学 水本徳明氏)
- ◆校長の「負のリーダーシップ」が教員集団に与える認識、感情・行動を分析し、内在する合理性期待を明らかにする。
- ☆「学級における集団的信頼の決定要因の分析」(愛媛大学 露口健司氏 他)
- ◆保護者に信頼される学級像を「つながり」の観点から分析。
- ☆「教員評価における目標管理の運用実態と課題」(川崎医療福祉大学 諏訪英弘氏 他)
- ◆教員評価の運用実態を調査し、教員の認識を探る。
- 北海道釧路町立富原小学校 傳法谷肇教諭(二年)
- ☆「市町村教育委員会の指導行政調査」(国立教育政策研究所 千々布敏弥氏 他)
- ◆指導主事配置数と学校訪問方針の相関をデータから分析。
- 山口県周南市立岐陽中学校 松岡千鶴教頭(二年)
- ☆「教育改革が求める校長の学校経営モデル」大坂府『教育改革プログラム』に基づく施策



公開シンポジウムの内容について報告をしている山口県周防大島町立久賀小学校 青山武司教頭(二年生)

- 展開の分析から」(帝塚山学院大学 深野康久氏)
- ☆施策に応じて「合意重視」から「企画・提案重視」に変遷する校長の学校経営をモデル化。
- 公開シンポジウムから
- 山口県周防大島町立久賀小学校 青山武司教頭(二年)
- ◆「小規模校化する日本の学校経営の課題と組織マネジメントの方策」(パネリスト:千葉大学 天笠茂氏 他)
- ☆マネジメントの観点から見る小規模校化の課題と可能性について分析・協議。
- 特別シンポジウムから
- 山口県山口市立鴻南中学校 原田隆史教諭(二年)
- ◆「教育委員会改革と学校経営の自主性・自律性」(問題提起・整理:北海道学園大学 荻原克男氏 他)
- ☆教育委員会制度の改定が学校の「自立」に与える影響を、多角的に分析・協議。



「成果の可視化」をキーワードに、特色ある学校づくりに対する想いを話される、安藤校長先生

「開かれた学校づくりの事例と実践演習」

二年生前期専門科目「開かれた学校づくりの事例と実践演習」(大野先生担当)では、ゲストティーチャーによる事例発表により、地域に開かれている学校の実例に触れる機会が多くなりました。学校の実態のみならず、そこに込められた理念や、管理職としてのマネジメントも同時に学ぶこととなり、本学修了後の実践的な場面での活用も期待されます。

本コースの修了生でもある、京都市立周山中学校 安藤克彦校長先生をゲストティーチャーにお招きし、学校の現状や特色等についてうかがいました。

同校は、京都市内で唯一の小中一貫型学校運営協議会が設置されており、小中一貫教育の円滑化、小学校の実務軽減に貢献しているとのこと。ただ、最近やや活動が膨らみ、中学校の庶務過密化が課題のようです。

「校長の役割は、生徒の活躍・成

中学校における「開かれた学校づくり」の先行事例
6月20日(金)



学校の取組について、実際に交えて分かりやすく説明していただいた、棚野教頭先生

長の実態を徹底的に可視化すること。教頭・副校長と理念・情報・戦略を共有。子どもの利益になるなら、誰とでも親交を。」との安藤校長先生のお言葉に、経営哲学を感じました。

兵庫県立神戸北高校 訪問
6月25日(水)

中学校での事例に続いて高等学校の事例について知るために、兵庫県立神戸北高校を訪ねました。本コース修了生である棚野勝文教頭先生から学校の取組についてうかがいました。「地元で活躍し、地域に貢献する人の夢と志を応援します」を教育目標に、全日制普通科高校でありながら、第2学年から、福祉ボランティア類型と教養類型に分かれる、特色ある類型をもった高校です。

数年前までは、生徒指導に課題のある学校でもあり、毎日のように特別指導が行われる実態もあったようです。しかし、地域と連携を重ねながら地域に学校を開いていくことで、学校は落ち着きを取り戻し、現在は、地域行事の中で生徒たちが貢献することで学校の資源や教育力を地域に還元する関係性を築かれています。

6月25日(水)



神戸北高校が携わっている里山づくりの様子について、現地で教頭先生から説明をいただいた。

特徴的だったのは、学校から徒歩で10分ほどのところにある里山の整備を、神戸北高校の生徒たちが行っている点です。かなりの面積があり、定期的に整備していくためには、やはり学校全体の取組としての意識が大切だと感じられました。

「学区が改編されても、地元密着型で、地域に育てていただける高校づくりを続けたい」と棚野教頭先生。新学区移行後の動向にも着目していきたいと思えます。

☆☆☆☆

関西学院初等部訪問

6月18日(水)

これまであまりなじみのなかった私立小学校のミッションを知り、学校運営の状況や経営上の要点について学ぶため、一、二年生9名が、関西学院初等部を訪問しました。村田辰明副校長先生から、学校の状況や経営に対する想い等について、お話をうかがいました。

同校の最大の特色は、「宗教」を牧師、音楽を声楽家、図工を陶芸家というように、専門家が



キリスト教の教えに基づく、たくましい生き方の育成を基礎に置き、「あいさつ」「掃除」「制服」による生活・学習の基本確立を低学年から徹底。

専科として指導している点。専門性は高い反面、組織力不足の面も。しかし、児童の成長する姿を大切にしたいとの願いから、共通理解を重ね、横の連携も強くなってきた様子です。

「訪問者は設備の豪華さを目を丸くされるが、教師の資質能力、授業力が高いことが、学校の特長。やはり人(教員)に尽きる、人をどう育てるか、本音でぶつかる教員集団づくりがカギ」という村田副校長先生の言葉が印象的でした。

学校改善の「本丸」は、やはり授業です。私立公立の別はあっても、子どもたちに確かな力を保証する学校づくりに向けて、さらに学びを深めたいと、強く感じました。

一人ひとりに細やかに接する姿勢と、子どもの個性に見合ったアプローチをする二方向の教育で、子どもたちの学力を育てる。



学会報告

6月22日(日)に宮城県の仙台大学で開催された日本体育科教育学会において、本学二年生の黒澤寛己教諭が、本学行動開発系教育コースの有山篤利准教授との共同研究「伝統的な動きを学ぶ柔道授業の提案」について発表しました。

まず、有山准教授から具体的な学習プログラムの報告があり、続いて黒澤教諭は、学校経営の観点から見た安全対策及び事故防止の具体策について報告しました。



後場の会場で。京都市立塔南高校 黒澤寛己教諭(二年生)

ストレート院生の授業を支援

ストレート院生一年生を対象とした「学校組織マネジメントB」の授業に、現職教員がサポーターとして入りました。本コースの学校経営事例の検討により、学校改善プランを三年間のスパンで考えるという、課題解決型の授業です。現職教員は、同じケースを用



グループで協力しながら発表するストレート院生。現象の背後にある問題に鋭く迫る。

いた改善プランづくりを、昨年度の授業で実施しました。現象面にとらわれて問題の本質に迫れなかった点など、昨年度の反省を踏まえ、授業の中でストレート院生に指導・助言しました。7月7日(月)2限、各グループの発表、その後現職教員からのアドバイスを、という流れで授業が実施されました。ストレート院生たちの鋭い分析に基づく発表は、現職教員を思わずならせる内容でした。

現職教員と学部生・ストレート院生が同じキャンパスで学ぶ本学の特色を生かし、今後も相互に学びを深める取組がなされることが期待されます。



発表者へのアドバイスを送る、兵庫県立西宮北高校 長尾 均主幹教諭(二年生)